

声・図書委員長に聞く

ただ一つだけ言い訳をさせていただけるなら、実務担当の司書さんが実に熱心でこちらの出る幕がなかったため、こういう状況を長く続けることが目下の私の役割だと思っている。そこでテーマとは少し異なるが、利用者一人として現在受けているサービスを列記しながら、受ける側の感想などを述べたい。

1. Contents service

新着雑誌目次コピーが週一回届く。毎年こちらの希望する雑誌をリストアップしている。私達が図書室を利用する楽しみの一つは特別な目的もなく新刊誌に目を通し、面白そうな記事を見つけることで、時に思いも掛けない情報をえて何か得をしたような気分になることもある。週一回くらいの図書室通いをずっと続けている同僚もいるが、物ぐさな私は診察にかまけて遠ざかってしまい、届けられる目次をみながら、残り香をかいでいるような状態である。

2. 文献検索と複写

当院でも医学中央雑誌や Index Medicus のパソコン検索ができるようになった。しかし病院職員のすべてがパソコンを使いこなせるわけではないので、不慣れなものにとっては、手慣れた司書さんに打ち出しを頼めることで時間も節約でき、精神的なプレッシャーからも解放される。また当院にない文献を他施設に依頼してコピーが手元に届く時間が大変早くなっている。病院図書室間のネットワークが整備された効果であろうか。

3. 新規購入図書リスト

毎月各科で購入した図書が、その所在場所とともに表記されて届けられる。眺めていると各科の活動領域を知ることができて面白い。

4. 新採用の病院職員への図書室紹介

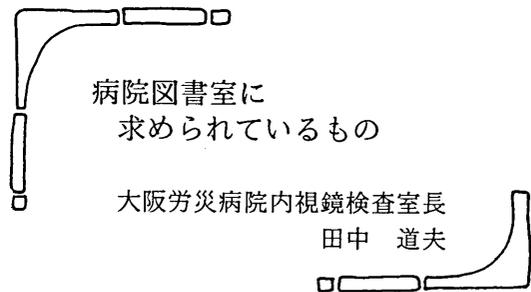
利用の方法、購読雑誌のリスト、サービス内容などを新採用者に紹介している。特に研修医など若い人に病院図書室の良さや規律正しい利用法を知ってもらうことを目的としているが、どの程度実が上がっているかは定か

でない。稀に本を借り出したまま転任する不心得者もいるので、所定の貸出し期限が過ぎれば遠慮なく電話などで返却を督促してほしい。

5. 専門誌の外来、医局への長期貸し出し

専門領域の新刊誌を未整本のまま各科の外来や医局に1~2年間貸してもらっている。後日製本の際欠号が出ることもあるが、それを差し引いても利用者側には有難いシステムである。

以上思いつくままに主なものを記した。病院図書に要する人員や予算は相変わらず厳しい状況が続くと思われるが、厚生省の研修医指定病院資格審査では病院図書の充実が重要な項目となっている。今後の病院評価に図書室の占める比重はさらに大きくなるものといえよう。



病院図書室に
求められているもの

大阪労災病院内視鏡検査室長
田中 道夫

全世界の大学や教育機関・研究機関、企業、地域ネットワーク、パソコン通信サービスなどを結んで張り巡らされたネットワークのネットワークである『インターネット』は、いまや次世代のコミュニケーションに欠かせないインフラストラクチャに成長しつつあります。1994年春の時点でインターネットに接続しているネットワークは約24000、ユーザーは2000万人とも言われ、現在も爆発的に成長を続けており、各種メディアでインターネットの話題を見ない日は無いまでになりました。

声・図書委員長に聞く

図書館は、インターネット上で最も視覚的で膨大な数の資源を持つものです。大学の、公立の、私立の、国立の、企業のもつ図書館、科学技術図書館、電子ブックを備えた電子図書館まであり、世界中のありとあらゆる図書館にインターネットを利用して訪れることができます。アメリカ国会図書館では Marvel という仮想的な図書館目録システムまで開発しており、電子的なカード式目録で、どの図書館の目録でもブラウズできます。医学分野に限っても、例えば、ボストンのハーバード大学の電子図書館 HOLLIS の中にはボストン地区の医学図書館の単行本検索が Mesh で行えたり、カリフォルニア大学の電子図書館 MELVYL には MELVYL MEDLINE、PsycINFO といったデータベースがあり、また全米の電子図書館ネットワークにゲートウェイもできます。おなじく MELVYL から入れる Uncover を使用すると学術雑誌の目次速報とドキュメント・デリバリーサービス (FAX あるいは電子的に文献が入手できる) が受けられます。今後さらに各種のデータベースの利用やドキュメント・デリバリーサービスが発達すると考えられます。

このような時代がもう始まっていることを考えると、インターネットを利用できるものとそうでないものとの情報格差はますます広がっていくものと思われます。これまではごく一部の人にしか利用できなかったインターネットもやっと大手パソコン通信サービスのインターネット接続サービスが始まったり商用ネットワーク接続サービスを行うネットワーク・サービス・プロバイダーと契約すれば誰でも自宅のパソコンからインターネットを通じて世界へ飛び出せるようになりました。

振り返って、わが国の病院の情報の流通はどうでしょうか？ 現代科学の先端にあるはずの医療の現場での状況は他の分野の人たちからはとても理解されないでしょう。病院図書室も、情報流通メカニズムが大きく変化する

時代に即応して変わる必要があります、これまでのようなペーパーメディアの陳列館としての役割から、医療情報全体の提供・発信基地としての役割が求められていると思われます。予算・機器など多くの問題を抱えておりますがぜひとも早い時期に病院職員がインターネットを利用できる環境を整備したいものです。

病院図書室利用者の
現状と今後の課題

大垣市民病院小児科部長
近藤 富雄

病院図書室の目的は、日本病院会図書室部会によると、診察、教育、研究、管理に従事する全スタッフの情報要求に、迅速にしかも確実に、組織的に応えることとされている。そのための具体的な役割は、1) スタッフの知識向上に必要な図書閲覧の機会の提供、2) スタッフの研究、教育の支援 (文献検索、医学関連情報の提供など)、3) 病診連携のための学術研究会、専門知識向上のための情報提供、4) 患者や教育に対する広報の支援、などが考えられている。

さてこれらの役割を十分果たすには、図書室の設備面と運営面の充実が必要である。病院により図書室の規模、予算、利用状況などが異なるため、スタッフが図書室に期待する役割にも違いがあると思われる。

そこで図書委員会では、当病院における図書室利用者の現状を知り、今後のより良いサービスを行うための改善を目的に、全スタッフ1129名を対象にアンケート調査を実施した。アンケートの回収率は70%であった。